

野呂恵子区議会通信



緑の党 野呂 恵子 (会派：エールおおた区議団)

事務所 146-0093 大田区矢口1-20-2-101 電話 03-3758-2758 FAX 03-3758-6525

ホームページ <http://www.keikonoro-green.jp/> メール keikohope39@gmail.com

野呂恵子の活動、区議会通信にご意見、ご要望をお寄せください。

春を待つ

昨年は、長期化するコロナ禍で、私はがんの再発による闘病の日々を、様々な人たちのご支援をいただき、在宅で送ることができました。この間、励ましのお言葉をかけてくださった方々、美味しいお料理を届けてくださった方々、議会に出席できない私をカバーしてくださった議員や区職員の皆様の温かいご支援に、心より感謝いたしております。

自分が、現職の議員として介護保険を利用することは想定外でした。21年間、様々な場面で学んだ介護保険制度でしたが、自分が利用して気付かされたことは想像以上でした。ケアマネ・医師・看護師などのチームが、私に寄り添い懸命に支えてくれ、わずかな変化も見逃さず対処してくれました。

医療と介護が連携して、現場の職員が適切なケア技術を発揮し、安心して働ける職場環境を構築し、制度を確立していくことがますます重要だと実感しました。

そのことこそが区民の安心となり、楽しく学び、憩い、集い、働ける地域社会へと発展していく原動力だと確信しています。大田区が介護保険制度に魂を込め、区民がこの街に住んで良かったと思える福祉の実現を願っています。

議会の出席がままならない日々でしたが、せめて各定例会で区民の声を質問しようと取組んできました。第4回定例会では車いすでの登壇となりましたが、多くの皆様からお力添えをいただき、質問することができましたことを嬉しく思っています。

春、病状が少しでも良い方向に向かい、区民の皆様とお会いできる日を、楽しみにしています。

皆様のご多幸と無病息災を心よりお祈りいたしております。

野呂 恵子



第4回定例会 野呂恵子の一般質問

2021年11月29日

介護保険の特定疾病への対応の広報を

野呂：介護保険制度開始から21年が経過。介護保険制度には様々な課題があるが、「介護は嫁の手で」「他人は家に入れない」という日本の慣習を「介護の社会化」へと日本社会を大転換させた。独居生活者も夫婦2人世帯も利用でき、プロの手による介護は安心感が大きく、これまで蓄積した技術は宝。それを正しく評価し、仕事に見合う介護報酬と賃金とするために、税と保険の折衷方式の負担割合を検討し、介護人材の確保を進める体制を構築しなければ、介護の社会化の進展は難しいと考える。

介護保険では、認知症などの高齢者を対象とすると

共に、40歳以上64歳で医療保険に加入している者が16の特定疾病のいずれかを患い、介護が必要な状態であれば、介護認定が受けられる。しかし、多くの人理解していない。特定疾病とは、進行性で治癒が困難と医師が判断したがん、関節リウマチ、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、骨粗しょう症など。

要介護認定を受ければ、様々なサービスを受けられるが、進行性の疾病の場合、訪問介護や看護、在宅医療などに絞られる。介護疲れを感じている家族には、レスパイトケア（小休止的な入院）がある。働き盛りの40代が発病した時に、子どもが親の介護や家事を担う、ヤングケアラーへの対策も必要。

今や、2人に1人ががん患者という中で、**特定疾病**

を患い、介護が必要な状態であれば介護サービスの対象となることを、しっかりと広報するべきではないか。

福祉部長：家族環境を踏まえた各種制度の案内を、ケアマネを通じて行っている。今後も、区ホームページ、パンフレットでの広報をはじめ、必要な情報を入手しやすいように、丁寧に対応していく。

野呂：16の特定疾病には、進行が早く、介護認定の見直しが追いつかないケースもある。利用者の急変期に備え、医師やケアマネ、60もある介護認定審査会が共通の認識を持つ記載方法を検討するべきではないか。

福祉部長：急速な状態の悪化を考慮した意見付記は、厚労省通知に基づき、審査会委員に周知済み。迅速な審査体制と、病気と闘う方や介護を要する方、そのご家族が安心して利用できる制度運営を目指していく。

利用者からのヘルパーへのセクハラ対策を

野呂：高齢化社会に対応するための介護人材を安定的に確保し、介護職員が安心して働くことのできる労働環境を整えることが必要不可欠。近年、介護現場で利用者や家族等による介護職員への身体的・精神的・性的暴力が課題。介護サービスは直接的な対人サービスが多く、利用者宅への単身の訪問や利用者の身体への接触も多いこと、職員女性の割合が高いことがその要因。

厚労省が、「介護現場におけるハラスメントに関する調査研究報告書」「対策マニュアル」「研修の手引き」「事例集」を作成。これらを活用し、介護事業者と地方公共団体に、ハラスメントの予防対策の推進と周知を求めているが、区の取り組みは。

福祉部長：今年度、ハラスメント研修を実施予定。厚労省の報告書等を事業者にも周知し、ハラスメント防止の啓発や、事業者向けの研修等に取り組む。

野呂：介護現場におけるセクハラとは、必要もなく手や胸など体をさわる、サービス提供に無関係に下半身を見せるなどの性的ないやがらせ行為。その実態は。

福祉部長：近年、事業者からのハラスメント相談が増加傾向。実態把握に努め、ハラスメントを防止し、介護職員が安心して働ける環境作りに努める。

野呂：セクハラ対策となる同性介護の実現に向けて、男性介護職員の増員に取り組むべきではないか。

福祉部長：施設系は一定程度の男性介護職員が従事しているが、訪問系は女性介護職員が多数。

様々な機会を活用し、人材を確保できるよう広報等を工夫し、心地よく関われる介護環境を作るよう取り組む。



傍聴の感想

野呂さんに感謝

小宮 正義 (野呂恵子後援会会長)

野呂さんと会って20年以上の歳月が経ちました。いつも、区民の目線に立ってよくやってくれていることを思い感謝しています。今回は、介護の問題を提起してくれましたが、今の自分たちの年齢からすると最も身近な問題です。まだ、自分や家内は普通に生活していますが、いつ介護のお世話になるかもしれません。筋の通ったお話を聞き、これからの参考にしたいと思いました。高齢者が一番に感じていることは、困った時に誰に相談したらよいかだと思います。どこに行けばいいのか、そのことを考えて、高齢者の気持ちに沿った野呂さんの活動に感謝しています。

どんな時もぶれない野呂さん

片野 令子 (元練馬区議会議員)

野呂恵子さんは、車いすで登壇。議場は一瞬緊張の空気が張りつめました。野呂さんは低いながらも張りのある声で介護保険について質問。ご自身ががんを患い、その経験から介護保険の特定疾病対応の欠陥を述べ、自治体がそれを補うことの重要性を指摘。さらに、セクハラ問題は、同性同士の介護により安心の介護が受けられることと、セクハラ研修の必要性を問いました。介護保険が使いやすくなるように、自治体も有権者も声を上げていくことを訴えました。最後に、大田区民と共に安心の区政を作っていくことを望むと締めくくりました。区議会議員野呂恵子さんの20数年のぶれない芯のある活動を思いながら議場を後にしました。

..... 議会のご案内

- 2022年第1回定例会：2月15日から3月25日
- 請願・陳情の締め切り：2月8日
- 詳細は事務局：電話 03-5744-1472

..... 野呂恵子プロフィール

- * 1954年青森県生まれ。弘前大学卒業。元小学校教員
- * 1999年大田区議会議員初当選 * 現在6期目
- * まちづくり環境委員会 * 防災安全対策特別委員会